

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における木川南学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・木川南小学校では、5年生 21名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施した。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

木川南小	学校	児童数	21
------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.27	21.09	28.45	41.36	51.55	9.75	142.91	21.09	51.82
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	16.00	17.70	33.90	39.10	34.50	10.19	136.00	12.50	51.10
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

男子は大阪市平均・全国平均を5種目で上回った。女子は大阪市平均・全国平均を二種目しか上回ることができなかった。男子・女子共には長座体前屈・50m走・立ち幅跳びに課題がある。体力合計点では男子は大阪市平均を上回ることができたが女子は大阪市平均・全国平均を上回ることができなかった。反面「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答状況についても、肯定的回答が男子（100％）女子（90％）とも大阪市平均・全国平均を超えている。1週間の総運動時間が60分未満の児童については、男女とも一定数いる。男子11名、女子10名と被験者が少なく、1人の記録で平均値が大きく左右されることを考えると、個人差が大きく反映するため、全市・全国の平均値と比べて考察することは難しい。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

通年で運動チャレンジ（通称ウンチャレ）を全学年で取り組み、基礎的な体力の向上に努めている。毎日、積極的に活動できている。今年度もトップアスリート事業で専門的なゲストティーチャーによる指導の機会をもっている。また、運動をする上で大切なバランス感覚と体幹を身に付けるために、スケートボードの授業を取り入れている。昨年度からの取り組みになり、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果にでははまだ時間を要するが、運動の基礎となる力の向上につながることを期待している。質問紙からも見られるように遊びなどを通して子どもたちの運動に対する意欲の高まりを感じている。今後は体育科の子どもたちが主体的に運動に親しみ、健康で充実した学校生活が送れるようにしていきたい。限られた時間の中ではあるが、効果的な運動をする中で体力・運動能力の向上を図っていく。休み時間を利用した「なわとび週間」「かけ足運動」を継続的に実施していく。